

【技術の名称】 竹中非梁貫通形式柱RC梁S接合構法（改定1）	性能証明番号：GBRC 性能証明 第20-20号 改1 性能証明発効日：2024年12月18日
	【取得者】 株式会社竹中工務店

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート（RC）造柱と鉄骨（S）造梁との接合部を構築する構法である。柱 RC 梁 S 接合部では梁鉄骨を貫通させる梁貫通形式が一般的であるが、本技術は接合部内の芯材にクロス H 形鋼（CH）を用いて S 梁と接合することで、梁フランジを接合部に埋め込まない非梁貫通形式のディテールとしたことを主な特徴とする。接合部の設計は梁貫通形式と同様に接合部のせん断および支圧破壊に対する検討に加えて、接合部内の CH ウェブの引張降伏に対する検討も行う。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第20-20号（2021年2月16日）
改定1：GBRC 性能証明 第20-20号改1（2024年12月18日）
・適用範囲の追加（厚肉ふさがり板タイプ、S 梁が接合部に対し平面的に角度を有して接合される場合）

【技術開発の趣旨】

本技術は、RC 柱と S 梁との接合部を選択することによって、工期および施工費用の制約条件の下、設計条件に応じた合理的な設計を実現することを意図して開発したものである。従来の梁貫通形式に対して、柱主筋と梁フランジの干渉を避けることによる合理的な設計や、梁段差をシンプルに設けられるディテールの開発が望まれており、本技術は、非梁貫通形式の接合部ディテールとすることでその解決を図っている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「竹中非梁貫通形式柱 RC 梁 S 接合構法 設計施工指針」に従って設計・施工された柱 RC 梁 S 接合部は、長期荷重時に使用上支障と

なるひび割れ等の損傷、ならびに短期荷重時に修復性を損なうひび割れなどの損傷を起こさず、同指針で定める終局耐力を有する。

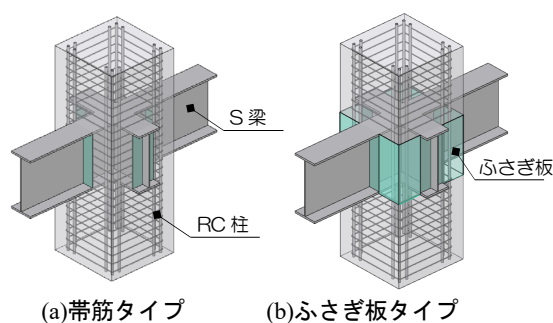


図-1 既往の梁貫通形式の柱 RC 梁 S 架構
（竹中柱 RC (SRC) 梁 S 接合構法）

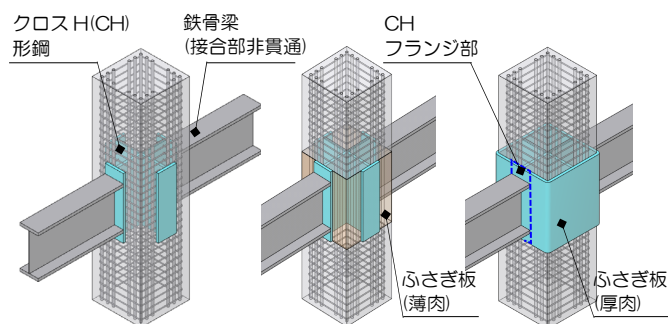


図-2 CH を用いた非梁貫通形式の柱 RC 梁 S 架構
（本工法）

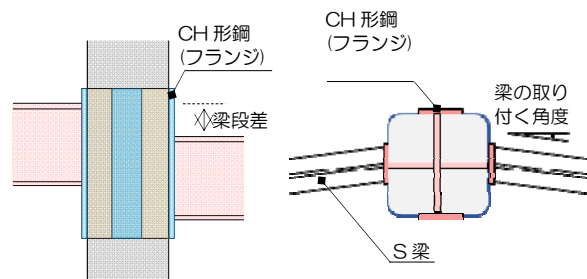


図-3 様々な接合法の例

【本技術の問合せ先】

株式会社 竹中工務店 技術研究所
〒270-1395 千葉県印西市大塚 1-5-1

担当者：福原 武史
TEL：0476-47-1700

E-mail：fukuhara.takeshi@takenaka.co.jp
FAX：0476-47-6460